

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
大地に根をはり 共に伸びよう 天までとどけ	自分づくりに関する力（自尊感情を育む）

(2) 中期取組目標

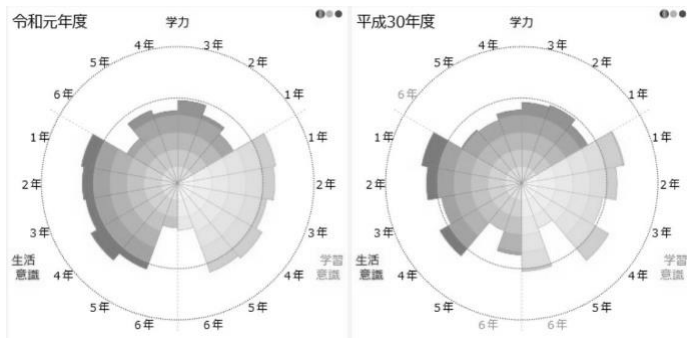
中期取組目標
<p>○一人ひとりの子どもにとって「授業が楽しい」「クラスが楽しい」「学校が楽しい」学校づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「分かる」「できる」楽しさを実感できる授業、主体的で対話的・深い学びを実現する授業を推進し学力を向上させます。 ・一人ひとりの子どもが豊かなかわりの中で安心して学校生活を送れるようにし、自尊感情を育みます。 ・心と体の健康に関心をもち、自ら進んで体力・健康づくりに取り組もうとする子を育て、体力を向上させます。 ・目標をもってチャレンジする経験を通して、集団の一員としての自覚や責任をもって人のために行動する子を育てます。 ・中学校ブロックや家庭・地域の連携等から社会の要請を感じ、新しいことに夢や希望をもってチャレンジする子を育てます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	「分かる」「できる」楽しさを実感できる授業、主体的で対話的・深い学びを実現する授業を推進し学力を向上させる。そのために、「授業のユニバーサルデザイン化（ゴールイメージ、見通しももてる授業）」「話し合い・高め合い」を充実し、楽しみながら課題解決に向かう主体性のある授業づくり<カリキュラムマネジメント>を推進する。
担当	推進委員会

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



市学力学習状況調査については、令和2年度は行っていないが、令和元年度の学力データから、横浜市平均を上回っている学年はない。しかしながら、学習意識や生活意識については、学校全体としての高まりがみられている。学習意識や学力意識が高まってきていることから今後の学力向上につながるのではないかと考えられる。

学習意識及び生活意識については下学年より上学年の方が市平均より低い状況にある

のは、例年と同じ状況となっているが、全体的には、高まってきている。「勉強が好きか」「授業が分かりやすいか」などの設問では、上学年になるにつれて数値が低い状況がある。基礎・基本の習得を大切にしつつ、友達と学ぶ楽しさを感じられる指導の工夫が引き続き求められる。

(2) 各教科の状況

- 低学年・・・国語「話す・聞く」は、平均を上回る。算数については、数学的な考え方の向上が見られる。
- 中学年・・・国語「話す・聞く」、算数「数学的な考え方」で上回る。
- 高学年・・・国語「読む」理科「技能」で多く平均上回る。市の平均に近づいている項目が多い。

(3) 経年変化の状況と分析

過去5年間の経年変化の状況から学校全体として生活・学習意識が高まっていると判断できる。学力としては、今年度、市の平均を上回るものがほとんどなかった。「勉強が好きか」「授業が分かりやすいか」「自分には、良いところがあると思うか」と正答率が相関関係にあることも明らかになってきている。「授業で、自分の考えを発表しているか」については、「よくしている」「どちらかといえばしている」の割合が上回っているが、主体的、対話的な活動をより多く取り入れ、自尊感情の伸長とともに学力の向上まで見通すことが大切である。